

美術同好会が参加した「砂の彫刻小中学校選手権大会」の様子が南日本新聞で紹介されました。

砂の彫刻に挑む小中学生
＝南さつま市中央公園



3日に開幕する「吹上浜砂の祭典」の関連事業「砂の彫刻小中学生選手権大会」が4月28日、南さつま市中央公園であった。9チーム約50人が出場しペインティングナイフやコテを使い砂像作りに取り組んだ。2019年以来5年ぶり。

砂の彫刻 50人挑戦

砂像文化の継承や創作意欲の増進などが目的。小学生は高さ0.9m、中学生は高さ1.2mの2段階の砂の塊を彫り進めた。同時に制作できるのは1組5人で、制限時間は各3時間と5時間。5月3日に表彰式がある。

小中一貫の金峰学園は6チーム出場。保護者が学校に運んだ砂で事前練習に励んだ。5年寶樂駿

南さつま・小中生選手権

君、末廣洸希君は地元の万之瀬川や金峰山を刻み「難しかったけど練習のおかげでうまくできた」。

坊津学園6年の4人は大好きな学校や亀をデザイン。南薩鉄道やサンセットブリッジを彫った万世中美術同好会の3年坂上瑛太君は「仲間と力を合わせて作るのが楽しい」と語った。

(犬塚政志)

坂上瑛太さんと万世中美術同好会の生徒が砂像を作成しています。